

メタセコイア

(土屋中学校の樹)

<学校教育目標>

夢に向かって

～生徒には夢を 保護者には感動を 職員には技を～

第 11 号

令和 6 年 3 月 1 日発行

さいたま市立土屋中学校

さいたま市西区土屋 1 7 6 6 - 1

TEL 0 4 8 - 6 2 2 - 4 6 1 1

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

別れ方の用意

～思いを残さず分かれること～

校長 澤田純一

暖かい日が続いたと思えば、強い北風が吹く寒暖の激しい日が続きます。そのような中、私はなにげにバイクを走らせ、越生町の梅林に行ってきました。私は行くあてもなく、ナビも使わず気ままにバイクを走らせることが好きです。知らない道を意の向くまま走らせることの楽しさは、決められたルートをとることより心が躍ります。ちなみに私の自宅から秩父にはおおよそ 1 時間、バイクの聖地と言われる奥多摩にはおおよそ 2 時間で行くことができます。そして、いつも走るルートは異なります。なので、今回も好きな方向に走らせていたら、たまたま越生町にたどり着いたというわけです。この越生という町は梅林で有名なのですね。その山々に囲まれた平地には梅の花がこれでもかというほど咲き誇っていました。もう少し時がたつと桜の季節になります。その頃、日本列島の話題は桜一色ですね。対して、梅は桜ほど注目を浴びませんし、派手さもありません。しかし、春の訪れを私たちに告げるその凛とした姿は厳しい風雪を耐え忍んだ後の自然の大いなる恵みであり、生命の息吹を感じさせてくれます。私はバイクを止め、しばし梅の花と会話をします。梅の花は私に言いました。「梅がこの時期に咲くのは、別れの用意をしなさいと告げるためです。次に桜が、新たな出会いを大切にしなさいと咲くのです。」なるほど。準備もなしにいきなり分かれるということではなく、別れ方の用意をしておくことが大切なのですね。

3 年生は、それぞれ進路が決まり卒業していきます。そこで、「一期一会」という言葉がありますが、これが最後かもしれないと思い、その時を大切にすべきであるという教えです。もう少し具体的に話しましょう。皆さんはこの土屋中に、そして各学級に所属しています。気の合う人もいればそうでない人もいることでしょう。集団生活ですからそのようなことはあり得ます。しかし、そのままの状態別れていくことは残念なことです。よくあることですが、別れた後に「今になって思えば、あいつはいい奴だった。」ということはありませんか？これは嘘なのです。今出会っている時がいい奴であることが大切なのです。別れた後で気づいても悲しいですし残念ですね。そして何よりも遅すぎるのです。皆さんはこの 1 か月、今出会っている友を大切にしてください。今が一番いいと思い、大切な時間を過ごしてください。なので、喧嘩した友人、話さなかった仲間にもメッセージを送ることが、すなわち、別れ方の用意です。そして思いを残さず旅立ってほしいと願っています。

私も 3 年生との別れ方の用意をしています。そして、この一年を振り返りこんなに素晴らしい 3 年生は教員人生においてなかったとの思いから、皆さんに「出会ってくれてありがとう」との言葉を送ります。皆さんのこと忘れません。

あっそうそう、卒業式が終わり正門を出たら、皆さんを育ててくれた母校を一度でいいから必ず振り返ること！これが土屋中の卒業生の姿と思うのです。

To be to be to be ! Ten made to be !!

完